

古民家宿泊参入相次ぐ

大手旅行会社や宿泊予約サイトが古民家や農家などの宿泊ビジネスに相次いで参入する。ANAホールディングスの旅行子会社は地方の農家宿泊などの旅行商品を来年度にも企画する。宿泊予約サイトの一休は高級別荘や古民家の宿泊を予約できるサイトを今秋に開く。地方の生活や交流を体験できる旅行プランを品ぞろえし、訪日外国人らの誘客を狙う。

航空券やツアーの予約サイト「ANAスカイウェーブ」で、百戦錬磨が予約を仲介する農家や古民家でカプセルホテルなどと同じ「簡易宿所」の営業許可を得ている。農林漁村などの宿泊に関心のある顧客を掘り起こす。農林漁村の民家や古民家など同社が仲介する宿泊施設を使ったパッケージ旅行を来年度にも企画・販売する。まず国内客全日本空輸とANAセールの運営するサイトで



ANA系 旅行商品を企画 一休 1日10万円超も

一休は11月、高級な別荘や古民家の利用を予約できるサイト「バケーションレンタル」を立ち上げる。施設オーナーが長期不在にするため貸し出す高級別荘や古民家を提携し、宿泊などに使ってもらおう考えだ。

訪日客が日本の宿泊施設に求めるもの
(単位%、複数回答)

1	Wi-Fi (ワイファイ) などの整備	39.7
2	低価格	34
3	日本文化の体験	24.8
4	英語対応	24.1
5	観光施設へのアクセス	24.1
6	広い温浴施設	22.7
7	日本料理などの充実	22.7
8	商業施設へのアクセス	19.9
9	高価格、高水準のサービス	16.3
10	施設外での夕食が可能	12.8

(注) アジア8地域の訪日客を対象にした日本政策投資銀行の調査より作成

オープン当初は約120軒の物件を登録する。いづれも旅館業法上の営業許可を得る。1日あたりの利用料金は1棟平均で5万円前後。10万円を超える高級物件もそろえる。高級感

を売り物にして他社との違いを打ち出す。一休は利用料金の10%を手数料として受け取る。日本政策投資銀行の調査によると、日本で民泊を経験したアジアの訪日客が日本の宿泊施設

2020年開催の東京五輪に向け、政府は都市部での宿泊施設の不足に備えて民泊の制度を整えようとしている。民泊解禁のため17年の通常国会での新法提出を目指す。すでに都市部の特区での民泊については、最低宿泊日数を6泊7日以上から2泊3日以上に短縮する政令改正を決めた。